

令和 4 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00618

研究課題名（和文）東京学派の研究

研究課題名（英文）Research on Tokyo School

研究代表者

中島 隆博（Nakajima, Takahiro）

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：20237267

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,200,000円

研究成果の概要（和文）：東京学派という発見的な概念を通じて、東京大学を中心として形成されてきた東京発の学知を、批判的に解明することが一定程度実現された。近代と前近代、日本とアジアという分割線を意識しながら、哲学・社会学・経済学・歴史学・文学の各分野における東京学派の位置付けと問題系を明らかにした。最終的に、戦前と戦後におけるそれぞれのディシプリンの変容を取り上げることで東京学派の編成を明らかにした。研究成果は『ブックレット東京学派』全4号にとりまとめた。また、海外の研究者の招聘や国際学術誌での特集号企画などをつうじて、近代日本思想を論じるための研究プラットフォームを作り上げることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西田幾多郎らに代表される京都学派は国際的にも頻りに研究対象に取り上げられてきたのに対し、東京学派は脱中心化されながら、日本社会全体の構造に浸潤してきたといえる。本科研の活動は東京学派の実態をあきらかにし、近代日本学術の経験を国際的に共有するとともに、この学派に対する批判的考察を可能とした点に意義がある。くわえて、東京という都市を舞台に形成された近代学術の問題系を再評価することによって、学術のグローバル化が進む時代における学知の国際的かつ国内的なネットワークを明らかにする役割を明確にした。

研究成果の概要（英文）：Through the heuristic concept of the Tokyo School, we could, to some degree, critically analyze the academic knowledge originating in Tokyo, which has been formed mainly at the University of Tokyo. With an attention to the dichotomies between modernity and premodernity, and between Japan and Asia, we clarified the position and issues of the Tokyo School in the fields of philosophy, sociology, economics, history, and literature. Finally, we discussed its formation by dealing with the transformation of each discipline in the prewar and postwar periods. The research results were compiled in four issues of "Booklet Tokyo School." In addition, through invitations to overseas researchers and a special issue of international journals, we were able to create a research platform for discussing modern Japanese thought.

研究分野：人文学

キーワード：東京学派 東京帝国大学（東京大学） アジア 日本 翻訳 近代

1. 研究開始当初の背景

東京大学は1877年の創設以来、欧州で育まれた学術のグローバル化の先陣を切り、現代に至るまでアジアにおけるその中心地となってきた。ところが、西田幾多郎らに代表される京都学派に対し、脱中心化されてきた東京学派の影響はかなり複雑な仕方で日本社会全体の構造に浸潤しており、このことが、同学派の批判的考察を困難にしてきた。とりわけ国際的な研究動向のなかでは、京都学派が研究者の関心を集めているのに対して東京学派のほうはその思想史上の重要性にもかかわらず分析の対象とされてこなかった。現代における学術のグローバル化の進展を念頭に置きながら、同学派の実態を明らかにし、近代日本学術の経験を国際的に共有する必要性が高まっていた。

2. 研究の目的

本科研では、近代日本において、東京大学を中心として形成された学術が、いかなる問題系を構成し、それがどのような思想的、政治的、社会的な影響を与えたのかを、国際的な角度から総合的に研究し、新たな研究プラットフォームを作り上げることを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、人文社会科学を中心に、東京学派という発見的な概念から、近代日本学術の経験を明らかにすることを試みた。具体的にはつぎのような手順を採った。

東京学派という発見的な概念をめぐって、主として哲学・思想分野の研究者との対話をつうじて概念の可能性を検討した(1年目)。

の議論を踏まえて研究分担者ごとに人文社会科学各分野での東京学派のありようを分析・検討していただいた(2・3年目)。分担は下記のとおり。中島隆博=中国哲学、小野塚知二=経済学、大木康=中国文学、園田茂人=社会学、松方冬子・鍾以江=歴史学、馬場紀寿=仏教学・インド哲学。

各分野での東京学派の分析結果を踏まえて、日本の学知全体にとっての東京学派を概観した。その際、の議論から東京学派にとって画期となる年代を特定し、その年代に絞って議論を深めた。

上記の過程では海外の研究者との連携を重視するとともに、研究成果報告論集としてブックレットシリーズを刊行することとした。

4. 研究成果

東京学派という発見的な概念を通じて、東京大学を中心として形成されてきた東京発の学知を、批判的に解明することが一定程度実現された。

日本の研究者たちは近代化の過程で、欧米の学知を取り入れるにあたって、自らの立ち位置を「アジア」そして「日本」に置かざるをえなかった。そのような特徴を踏まえて、本科研の一年目は主として、東京学派が「アジア」と「日本」をどのように自己認識したかを研究した。一年目の研究結果として、歴史学での「アジア的生産様式論争」や、植民地における帝国大学の建設などの事例を通じて、「アジア」と「日本」が同一性と差異をもちながらともに焦点化される過程を明らかにすることができた。また、「日本哲学」や「中国哲学」といったアジアの地域哲学の編成において、地域の名と哲学との軋んだ関係、具体的には前近代の「思想」を哲学に組み込んでいった「中国哲学」に対し、「日本哲学」が徐々に近代に特化することで、前近代の日本「思想」が哲学から周縁化されていくことが示された。一年目に得られた示唆は、東京学派の学知が欧米の視線を「アジア」と「日本」に向け直す際に、近代日本の外部としてのアジアと前近代を問題にせざるをえなかったが、十分な概念的反省を経ないままに、制度的な大学や学科の編成を左右してしまったといえる、ということである。

二年目は、近代と前近代、日本とアジアという分割線を意識しながら、各分野に分かれて研究を深めた。哲学・歴史学では、沖縄学、日本漢学、日本儒教、中国仏教、近代仏教研究という近代的な学知の成立を問うた。社会学では、分担者の園田茂人以外に、コアメンバーとして中筋直哉(法政大学社会学部教授)、矢野善郎(中央大学文学部教授)、米村千代(千葉大学大学院人文科学研究院教授)の助力を仰ぎ、それぞれ「アジアとの結びつき」(園田)、「農村研究」(中筋)、「ヴェーバー受容」(矢野)、「家族研究」(米村)をキーワードに、社会学という学知の成立の系譜を辿った。その作業を行う際、とくに戦前と戦後の断絶/継続に関心を置きつつ、それぞれの問題関心から研究し、報告を行った。戦前と戦後の断絶/継続という論点はその後も本科研を底するものとなり、最終年度の総括シンポジウムでも重要な論点となった。

経済学とりわけ経済史では、東京学派の学知が東京大学に閉じず、1950年代から70年代にかけて東北大学・福島大学などの東北の大学に継承され、他分野である法学分野の若手中堅研究者たちとの間に、幸福な共存関係を形成したことを明らかにした。その記憶はいまも、樋口陽一や戒能通厚などの研究者に引き継がれているが、それが可能になった要因としては、大塚久雄をはじめとする比較経済史学の想定した西洋近代市民社会さらには山田盛太郎など講座派に属する研究者にとっても資本主義発展の最先進国類型とされたイギリス・フランス・アメリカなど

の社会像が、憲法とは市民が国家権力を制約する道具として発展させたとする憲法学での標準的解釈と符牒が合った点が指摘できる。むしろ、そこには、大塚が戦時から強調してやまなかった市民の主体性という論点が作用していたし、また、東京大学を中心に展開した欧米史研究でも、プロイセン・ロシア・日本的な「市民の未成熟」との対比において、英仏米が表象されたことも関わっていた。ポピュリズムやフェイクニュースの威力を知っている現在のわれわれには、こうした近代(完全に完成された近代)と不完全で未完成の近代との対比という図式の射程距離の限界が見えているのだが、逆に、こうした限界を知るがゆえに、見果てぬ目標としての「近代市民社会」や「十全な主体性」という概念はいまもなにがしかの極北を指し示していることがうかがえる。

分野ごとでの東京学派研究を進めた上で、2020年1月に哲学・歴史学と社会学の協同事業として、シンポジウム「シリーズ「東京学派」:その求心力と遠心力」を開催した。農村社会学者である福武直の研究群をよく理解している武川正吾と、安岡正篤研究で博士号を取得したエディ・デュフルモンを招聘し、東京学派における中間団体に対する位置付け、またマルクス主義・共産主義に対する態度について議論を深めた。

三年目はコロナ禍が本格化して、対面での開催が困難になったために各イベントの開催形式をオンラインに切り替え、海外からのゲストの招聘もオンラインとした。二年間で得られた方向性を具体的に形にすることに注力し、哲学・歴史学からはブックレット1号『江湖・無縁・アゴラ もういちど「自由」の在処を探す』(2020年12月刊)を公刊した。それは、「江湖・無縁・アゴラ」という通常の哲学・歴史学では周縁化された場所を研究してきた東京学派の意義について検討したものであった。さらに社会学の側からの研究報告として、4名のコアメンバーに加えて、佐藤健二、出口剛司という2名の社会学研究室関係者にコメンテーターを依頼した「社会学の中の東京学派」を開催し、その内容をもとにブックレット2号『社会学の中の東京学派』(2021年2月刊)を公刊した。なお、その後、園田は2020年10月に、東京大学の授業(ITASIA139)で"Development of Empirical Sociology and China Studies in Japan"とする講義を、2020年11月に、川島真(東京大学教授)が主催する「中国学の再創生」プロジェクトでの研究会で「日本の社会学における中国研究 その130年を回顧する」とする報告を、それぞれ実施。東京学派の研究で発展させた議論をより広げていった。前者については2022年3月に刊行された『"Intellectual Giants" in UTokyo: A History of China/Taiwan Studies』(ブックレットGJS vol.4)に報告が収録され、後者については、川島・園田編『日本の中国研究』(仮題、東京大学出版会)に大幅にリライトされた原稿が収録される予定となっている。

歴史学からはワークショップ「包摂と排除:東京(帝国)大学の近代学知」を開催し、フォーコーの「近代的統治性」概念を手がかりにしながら近代学知を論じ、国民国家としての日本を形成するのに帝国大学が果たした役割を明らかにした。この成果は別途書籍の形式で刊行される予定である。さらに、文学からは、米国とフランスから提題者を招聘し、「東京学派と日本古典源氏物語をめぐる」として、源氏物語を手がかりにして、東京学派の古典研究の在りようについて論じた。その内容は、ブックレット3号『東京学派と日本古典 源氏物語をめぐる』(2021年4月刊)として刊行した。

全体を通して見ると、三年目にはそれぞれのディシプリンにおける東京学派の位置付けとそれぞれに特徴的なプロブレマティークが明らかになった。ここで合意されたのは、戦前と戦後におけるそれぞれのディシプリンの変容を取り上げ、それを比較することで東京学派の編成と変容を明らかにできるのではないかということであった。

最終年度は、その合意を実現すべく、1920年代と1960年代を中心とする各ディシプリンの編成と変容についてシンポジウムを行った。順に、小野塚知二「共同体の有無と産業発展:欧州、ロシア、日本、中国」、大木康「鹽谷温の中国戯曲小説研究」、園田茂人「実証主義社会学の萌芽と隆盛:「東京学派」の社会学に見る構造変容」、松方冬子「東京学派の史学史:史料編纂所海外史料室の視点から」、鍾以江「東京帝国大学における海法研究」、馬場紀寿「東京帝国大学の「原始仏教」研究:印哲がたどった道とたどらなかった道」、中島隆博「東京学派における哲学の問題系の変容」、コメンテーター:内田力(東京大学)という発表を行った。その成果は、ブックレット4号『東京学派の研究 総合シンポジウム』(2022年3月刊)にまとめることができた。シンポジウムでの議論で結論づけられたのは、1920年代の東京学派が国際性・議論の深さ・分野横断性を備え、西洋言語の漢語翻訳を駆使して各分野で優れた業績を生み出したこと、そして、戦後の東京学派は新たな問題意識(日本の敗戦や新たな国際秩序)で再編され、その研究成果が1960年代に表れたということである。

なお付言しておく、「東京学派の研究」は国際的にも関心を寄せられ、Journal of Japanese Philosophyの2022年号では東京学派の特集が組まれることになっている。

以下、本科研で開催した研究集会を年表のかたちで掲載する。所属の記載がない研究者が本科研のメンバーである。

2018年度(1年目)

6月15日 ワークショップ「アジアの概念化」

発表 : 磯前順一(国際日本文化研究センター)「内在化する「アジア」という眼差し:アジア的生産様式論争と石母田正」

発表 : 松田利彦(国際日本文化研究センター)「植民地朝鮮における東京帝

- 国大学の学知 服部宇之吉と京城帝国大学の創設をめぐる」
 コメント：園田茂人・中島隆博
- 10月4日 ワークショップ「中国哲学をめぐる」
 発表：佐藤将之（台湾大学）、小島毅（東京大学）、石井剛（東京大学）
 司会：中島隆博
- 1月22日 ワークショップ「日本哲学と東京大学の哲学」
 発表：トマス・カスリス（オハイオ州立大学特別名誉教授）
 発表：小林康夫（青山学院大学、東京大学名誉教授）
 討論者：鈴木泉（東京大学）・納富信留（東京大学）・中島隆博
 （科研費基盤研究(B)「『哲学雑誌』のアーカイブ化を基礎とした近代日本哲学の成立と展開に関する分析的研究」(研究代表：鈴木泉)との共催)

2019年度(2年目)

- 4月20日 社会学班「家族研究における戦前/戦後の諸潮流：『東京学派』を考えるためのラフスケッチ」(ゲスト：米村千代(千葉大学))
- 5月23日 新年度打ち合わせ(新メンバー顔合わせ)
- 6月15日 社会学班「東京学派の中の『社会学アジア・コネクション』」
- 6月30日 「『東京学派』というプロジェクト」(園田によるプロジェクトの説明と社会学班の今後の報告スケジュールの策定)
- 7月8日 国際ワークショップ「東京学派と近代教養の編成」
 報告：石田正人(ハワイ大学)「伊波普猷について：何が 沖縄学 を生み出したのか」
 報告：町泉寿郎(二松學舎大学)「方法としての日本漢学」
 報告：中島隆博「近代日本の儒教教育：元田永孚、中江兆民、三島中洲」
 ディスカッション：Li Chenyang(南洋理工大学)・張志強(中国社会科学院)
 (東京大学東アジア藝文書院、科研費基盤研究(B)「グローバル化する中国における現代思想と伝統に関する研究」(研究代表者：石井剛)との共催)
- 7月29日 社会学班「<日本社会学史>の社会学」(ゲスト：佐藤健二(東京大学))
- 9月6日 「福武直を研究する意味」(ゲスト：中筋直哉(法政大学))
- 10月6日 「東京大学社会学研究室におけるヴェーバー(の希薄さ)」(ゲスト：矢野善郎(中央大学))
- 11月5日 研究会「東アジアの伝統仏教学と近代仏教学」
 発表：柳幹康(花園大学)「東アジアの『宗鏡録』 中韓日における受容と展開」
 発表：一色大悟(東京大学)「東京大学における仏教基礎学研究的伝統と近代」
 司会：馬場紀寿
- 1月11日 研究会「東京学派と東北 経済学・法学分野での交流と共創」
 問題提起・司会：小野塚知二
 報告：阪本尚文(福島大学)「自由と公序の弁証法：『営業の自由』論争50年と憲法学の現代的地平」
 愛敬浩二(名古屋大学)「比較経済史学と比較憲法学：樋口陽一の憲法学の軌跡と東北大学法学部」
 コメント：小林純(立教大学名誉教授)
- 1月25日 研究会「歴史研究における『東京学派』の可能性 講座派・比較経済史学派に注目して」
 問題提起・司会：小野塚知二
 報告：恒木健太郎(専修大学)「大塚久雄と出口勇蔵：戦時下におけるWerdenの発想の継受について」
 報告：大八木豪(金城学院大学)「高木八尺と日米関係」
 コメント：左近幸村(新潟大学)
 (政治経済学・経済史学会関東部会との共催)
- 1月27日 シンポジウム「シリーズ『東京学派』：その求心力と遠心力」第1回
 発表：武川正吾(明治学院大学)、エディ・デュフルモン(ポルドー・モンターニュ大学)
 コメンテーター：中島隆博・園田茂人
- 1月31日 研究会「東京学派とフランスの哲学」
 発表：エディ・デュフルモン(ポルドー・モンターニュ大学)、中島隆博

2020年度(3年目)

- 4月28日 新年度打ち合わせ
- 7月15日 ワークショップ「江湖・無縁・アゴラ—松方冬子「普遍、アゴラ、グローバル・ヒストリー」によせて、もういちど『自由』の在処を探す—」
 発表：石井剛(東京大学)、大木康、内田力(東京大学)、松方冬子

- 司会：中島隆博
- 7月18日 ワークショップ「包摂と排除：東京（帝国）大学の近代学知」
 総論報告：鍾以江
 導入報告：磯前順一（国際日本文化研究センター）「ポジションナリティをめぐって 学問と差別」
 発表：平野克弥（UCLA）Sovereignty, Social Darwinism, and Colonial Empire: On Kato Hiroyuki's "New Theory of Human Rights"
 発表：上村静（尚絅学院大学）Anti-Judaism in Modern Biblical Studies and the Difficulty in Discussing "Impurity" and "Discrimination" in Ancient Judaism
 発表：小田龍哉（同志社大学）柳田國男と南方熊楠、タブー論をめぐって」
 発表：吉田一彦（名古屋市立大学）「坂本太郎による『日本古代史』の創出：『日本書紀』・天皇制度・『律令国家論』」
 発表：川村覚文（関東学院大学）Politics and Technology: A Consideration of the Tokyo School
 発表：関口寛（四国大学）「20世紀初頭のアカデミズムと統治の眼差し：鳥居龍蔵と喜田貞吉の被差別部落民研究から」
 発表：片岡耕平（北海花園大学）「網野善彦の差別論について」
 総括：中島隆博
 コメント：内田力（東京大学）藤本憲正（国際日本文化研究センター）、ゴウランガ・チャラン・プラダン（国際日本文化研究センター）、松方冬子、大村一真（同志社大学）舟橋健太（龍谷大学）鍾以江
- 9月26日 ワークショップ「社会学の中の東京学派」
 司会（午前の部）・趣旨説明・総括：園田茂人
 報告：中筋直哉（法政大学）「福武直の選択」
 報告：矢野善郎（中央大学）「『聖典』なき正統？「預言者」なき学派？東京大学の社会学におけるヴェーバー（の希薄さ）」
 司会（午後の部）：中筋直哉（法政大学）
 報告：米村千代（千葉大学）「家族研究における戦前／戦後の諸潮流 家族変動論の一つの困難」
 報告：園田茂人「東京学派の中の「社会学アジア・コネクション」：その歴史的回顧と教訓」
 コメント：出口剛司（東京大学）・佐藤健二（東京大学）
- 10月17日 シンポジウム「東京学派と日本古典 源氏物語をめぐって」
 報告：毬矢まりえ（『源氏物語 A・ウェイリー版』訳者）・森山恵（『源氏物語 A・ウェイリー版』訳者）「アーサーウェイリー訳『源氏物語』を語る - 世界はどのように源氏物語を読んだか」（聴き手：木村朗子（津田塾大学））
 報告：ポール・シャロウ（ラトガース大学）「世界文学としての源氏物語」
 報告：寺田澄江（フランス国立東洋言語文化大学）「源氏物語翻訳と研究」
 報告：藤井貞和（東京大学名誉教授）「膠着語的と生成論的」
 総合討論司会：中島隆博
 総合討論コメントーター：高木信（相模女子大学）
- 2月22日 年度末まとめの会

2021年度（4年目）

10月31日 総括シンポジウム

- 発表：小野塚知二「共同体の有無と産業発展：欧州、ロシア、日本、中国」
 発表：大木康「鹽谷温の中国戯曲小説研究」
 発表：園田茂人「実証主義社会学の萌芽と隆盛：「東京学派」の社会学に見る構造変容」
 発表：松方冬子「東京学派の史学史：史料編纂所海外史料室の視点から」
 発表：鍾以江「東京帝国大学における海法研究」
 発表：馬場紀寿「東京帝国大学の「原始仏教」研究：印哲がたどった道とたどらなかった道」
 発表：中島隆博「東京学派における哲学の問題系の変容」
 コメントーター：内田力（東京大学）

また、科研プロジェクトの成果報告論集として刊行した「ブックレット東京学派」全4号は下記のとおりである。

- 1号『江湖・無縁・アグラ もういちど「自由」の在処を探す』（2020年12月11日刊）
- 2号『社会学の中の東京学派』（2021年2月22日刊）
- 3号『東京学派と日本古典 源氏物語をめぐって』（2021年4月26日刊）
- 4号『東京学派の研究 総合シンポジウム』（2022年3月25日刊）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Takahiro Nakajima	4. 巻 May
2. 論文標題 "Open Philosophy"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SAI, International Association of Korean Literary and Cultural Studies	6. 最初と最後の頁 227-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahiro Nakajima	4. 巻 189
2. 論文標題 "Constitutionalism and Sovereignty: On Constitutional Problems in Japan"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Telos	6. 最初と最後の頁 156-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahiro Nakajima	4. 巻 6
2. 論文標題 "Confucian Modernity in Japan: Religion and the State"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Philosophy	6. 最初と最後の頁 45-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 105
2. 論文標題 「世界哲学としての中国哲学・日本哲学」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『二松學舎大学 人文論叢』	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 2020年11月臨時増刊号
2. 論文標題 「神に先立つ道 鈴木大拙と『老子』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想 総特集 鈴木大拙 生誕一五〇年 禅からZenへ』	6. 最初と最後の頁 74-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 2021年1月号
2. 論文標題 「『老子』読解の近代」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『思想』	6. 最初と最後の頁 8-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 734
2. 論文標題 「東京帝国大学経済学部の創立と社会政策学」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『大原社会問題研究所雑誌』	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 21
2. 論文標題 「原料革命とその後：経済史家が工学系研究者に問いたいサステナビリティ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 EMPower	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場紀寿	4. 巻 15
2. 論文標題 「仏教における正統と異端」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東京女子大学比較文化研究所付置 丸山眞男記念比較思想研究センター報告』	6. 最初と最後の頁 52-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 馬場紀寿	4. 巻 179
2. 論文標題 「ブッダゴーサの正法存続論」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東洋文化研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松方冬子	4. 巻 78巻3号
2. 論文標題 「約条と契約 徳川政権の外交とオランダ東インド会社」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東洋史研究』	6. 最初と最後の頁 34-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松方冬子	4. 巻 568
2. 論文標題 「普遍、アゴラ、グローバル・ヒストリー1 ヨーロッパというアゴラ」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『UP』	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松方冬子	4. 巻 569
2. 論文標題 「普遍、アゴラ、グローバル・ヒストリー2 アゴラは必要か」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『UP』	6. 最初と最後の頁 7-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松方冬子	4. 巻 570
2. 論文標題 「普遍、アゴラ、グローバル・ヒストリー3 英語を鍛えるとはどういうことか」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『UP』	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松方冬子	4. 巻 571
2. 論文標題 「普遍、アゴラ、グローバル・ヒストリー4 グローバル・ヒストリアンは養成できるか」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『UP』	6. 最初と最後の頁 42-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松方冬子	4. 巻 27
2. 論文標題 「世界の中の近世日本史をどう描くか 平川新『戦国日本と大航海時代』に寄せて」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『洋学』	6. 最初と最後の頁 103-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松方冬子	4. 巻 1007
2. 論文標題 「世界史をどう／なぜ語るか」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 165-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shigeto Sonoda	4. 巻 12
2. 論文標題 “ Japon Sosyolojisinin Gelisimi ve Asya ile Iliskisi ” (トルコ語)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sosyoloji Divani Sayi	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yijang Zhong	4. 巻 Volume 19, Issue 6, Number 3
2. 論文標題 “ The Backside of Japan, ” Development, and Imperialism in Northeast Asia ”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Asia-Pacific Journal: Japan Focus	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sonoda Shigeto	4. 巻 41
2. 論文標題 China and Japan: Facing History	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Studies	6. 最初と最後の頁 137 ~ 138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10371397.2021.1895733	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博	4. 巻 48
2. 論文標題 わたしたちの共生：パーソナルなものをめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界思想	6. 最初と最後の頁 94-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島隆博 (王前・訳)	4. 巻 16
2. 論文標題 以“制作”取代“自然”論丸山真男“近世日本政治思想史中的‘自然’与‘制作’”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 知識分子論叢 (丸山真男：在普遍与特殊之間的現代性)	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahiro Nakajima	4. 巻 9
2. 論文標題 "The Influence of Chinese Sources on the Formation of Philosophy in the Tokyo School: Focusing on Kuwaki Gen'yoku"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Philosophy	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木康	4. 巻 10
2. 論文標題 中国明末と日本十八世紀の文学・思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アナホリッシュ國文學	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大木康	4. 巻 180
2. 論文標題 清初文人姜実節の生涯とその文学藝術	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 園田茂人	4. 巻 2021年度
2. 論文標題 アジア大洋州における日本研究：歴史・関心・課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 独立行政法人国際交流基金日本研究・知的交流部『2021年度アジア・大洋州の日本研究事情』	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 947
2. 論文標題 ゼロ成長経済と資本主義：縮小という理想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 148-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 35
2. 論文標題 コロナ禍を世界史から問い直す	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社社会福祉学	6. 最初と最後の頁 64-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計63件（うち招待講演 46件 / うち国際学会 30件）

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 「フランスシノロジーが読む孟子」
3. 学会等名 二松學舎大学東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・SRF共催シンポジウム「21世紀における『孟子』像の新展開」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 “Okinawa in the Eyes of Ota Masahide” in Colloque international “Historians of Asia on political violence”
3. 学会等名 amphitheatre Guillaume Bude, College de France（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 “Representations of Antiquity in Ancient China and Early modern Japan: Reading the Xunzi”
3. 学会等名 EAA Forum Recent Past & Remote Past（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 「桑木巖翼と中国哲学」
3. 学会等名 シンポジウム「桑木巖翼と『哲学雑誌』」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 「日本における老荘思想の近代的受容」
3. 学会等名 「東アジアにおける哲学の生成と発展 間文化の視点から」第一回共同研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 「来者を思う：哲学の希望」
3. 学会等名 未来哲学研究所創設記念シンポジウム「未来」という次元を回復するために」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 「フランスにおける『老子』受容」
3. 学会等名 日仏東洋学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「学部で経済史をどう教えるか」
3. 学会等名 社会経済史学会第88回全国大会ラウンドテーブル（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「読まれない歴史、読まれなくなった歴史」
3. 学会等名 社会経済史学会第88回全国大会パネルディスカッション「戦後歴史学」後の歴史研究と経済史 多様化の中の方法的模索 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「東京帝国大学経済学部の創立と社会政策」
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会2019年春季総合研究会「経済学部の成立と日本の学知」(社会政策学会共催、法政大学大原社会問題研究所協賛)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「会計は何を表現できるのか、何を勘定すべきなのか」
3. 学会等名 会計理論学会第34回全国大会統一論題「四半世紀後・世界的な成長後経済・社会におけるAccount-ing」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「学生がはじめて経済史に出会うとき：彼らが知りたがることと知るべきこと」
3. 学会等名 日本経済学会連合 第5回アカデミック・フォーラム(社会経済史学会 / 政治経済学・経済史学会 / 日本金融学会 / 早稲田大学政治経済学術院 共催「学部で経済史をどう教えるか」(招待講演))
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「ダヴィッドフ/ホール『家族の命運：イングランド中産階級の男と女1780-1850』を読んで」
3. 学会等名 「歴史と人間」研究会2019年度シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「経済学史と経済史の間：その現実と隔たりと理想的な関係」
3. 学会等名 経済学史学会第84回大会共通論題「経済学史の未来：経済の理論と歴史から」(経済学史学会創立70周年記念)（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 "From Certificate of Rights to Oral Prohibitions: Tokugawa Capitulations in the Seventeenth Century" for the organized panel (organizer: Matsukata) "Trading Papers: New Insights on Early Modern Diplomatic Documents & Practices in Coastal Asia" 【コロナウイルス感染拡大により学会中止・査読通過済み】
3. 学会等名 AAS Annual Conference, Boston, USA (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 「趣旨説明：洋学と陸海軍の創設（パート2） 技術と制度の移転」
3. 学会等名 洋学史学会ミニ・シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 「世界史をどう／なぜ語るか」
3. 学会等名 歴史学研究会大会合同部会シンポジウム「主権国家再考Part3：帝国論の再定位」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 “Five Types of Sakoku, and Perhaps More: Japan’s Self-Portrait within the Context of ‘General History’ ”
3. 学会等名 Wake Forest University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 「村上直次郎と岩生成一 近代歴史学と欧文史料による日本史」へのコメント」
3. 学会等名 HMC・LUIセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 “Toward a Global History of Diplomacy”
3. 学会等名 <韓中 外交史 總覽> 編纂 韓中關係史 研究会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 Introduction for Special Seminar “Royal Letters, Imperial Documents: A Japanese, Korean and Thai Trilogue for a Global History of Inter-State Relations”
3. 学会等名 HMC・LUIセミナー（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 園田茂人
2. 発表標題 「富永先生と『中国の教え子たち』」
3. 学会等名 富永健一先生の学問と人を語る会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 園田茂人
2. 発表標題 「コメント」
3. 学会等名 ラウンドテーブル「環太平洋学術交流の可能性」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 園田茂人
2. 発表標題 “Japanese Studies in the Age of China's Rise”
3. 学会等名 49th American Advisory Committee for Japanese Studies (Park Central Hotel New York)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 園田茂人
2. 発表標題 “Rediscovering Local Uniqueness, Utilizing National Attractiveness, and Increasing Global Connectivity: Why and How Global Japan Studies (GJS) Program has Developed at the University of Tokyo”
3. 学会等名 Chuncheon UniverCity International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 園田茂人
2. 発表標題 「日本の社会学における中国研究：その130年を回顧する」
3. 学会等名 「中国学の再創生」第15回公開研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 園田茂人
2. 発表標題 “From ‘Global Japan Studies’ to ‘Global Asian Studies’: IASA’s Changing Strategies and Its Background”
3. 学会等名 Global Asias: A Trans-Pacific Dialogues, School of Arts and Sciences, Rutgers University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 《作為語言的思想》
3. 学会等名 語言、想像力、政治 東方民族思維與實踐中的語言觀工作坊 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 「思想としての言語 - 翻訳について」
3. 学会等名 京都大学日本哲学史フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahiro Nakajima
2. 発表標題 “Dream of Association: Rethinking of Miki Kiyoshi”
3. 学会等名 International Conference “Reconsidering the Universal and the Particular in East Asia”（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahiro Nakajima
2. 発表標題 “Open Philosophy”
3. 学会等名 韓国成均館大学「東アジアを解き放つ」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shigeto Sonoda
2. 発表標題 Galapagos Syndrome as a New Challenge under Globalization: The Case of “Paradox of Localization” of Sociology in Japan
3. 学会等名 Japan in the Global 21st Century: Retrospectives and Challenges on the 150th Year Anniversary of the Meiji Restoration（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeto Sonoda
2. 発表標題 Challenges of “Localization of Sociology” in Asia: A Personal Reflection
3. 学会等名 SNU-UT JOINT SOCIOLOGICAL FORUM "Critical Reflections on Contemporary Societies and Sociology" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeto Sonoda
2. 発表標題 Opportunistic Localization is a Good Thing: An Exploration of Resilience of Sociology in Japan
3. 学会等名 International Symposium Global Asia in Interdisciplinary Perspectives: Sustainability, Security and Governance (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeto Sonoda
2. 発表標題 Roundtable: Doing Sociology in East and Southeast Asia
3. 学会等名 2018年台湾社会学年会「行動中的社会学」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鍾以江
2. 発表標題 Matsunami Niichiro, Maritime Law, and the Envisioning of a Maritime Empire in Modern Japan
3. 学会等名 Global Asia in Interdisciplinary Perspective (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鍾以江
2. 発表標題 The Underside of Japan: Geography and Spatial Formation in Modern East Asia
3. 学会等名 The First Tohoku Conference on Global Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鍾以江
2. 発表標題 里日本与近代東亜地理空間的形成
3. 学会等名 日中友好会館「後楽講堂」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鍾以江
2. 発表標題 神道と国体
3. 学会等名 日文研楊際開共同研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ONOZUKA, Tomoji
2. 発表標題 Conceptions graphiques imaginees de la cuisine britannique et japonaise: Une comparaison de la conception des perceptions sensorielles de la saison
3. 学会等名 Second colloque international du projet PSL Etudes globales "Fusion culinaire Europe-Asie: Espace global d'apprentissage et de recherche sur la cuisine" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 野良猫のいる社会といない社会：その比較と移行過程
3. 学会等名 日本ペットサミット第11回例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ONOZUKA, Tomoji
2. 発表標題 The First and the Second Global Economy: A comparison of the international labor movements in the two periods of globalisation
3. 学会等名 Annual Conference 2018, The Korean Economic History Society（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 アジア研究図書館の可能性と方向性
3. 学会等名 東京大学附属図書館U-PARLシンポジウム：むすび、ひらくアジア3「図書館をめぐる知の変革」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 音楽と欲望
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会秋季学術大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 第一次世界大戦前の炭坑夫の国際労働運動 労働基準・移民規制・労組間連帯に注目して
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ONOUZUKA, Tomoji
2. 発表標題 Ability for Culinary Creation
3. 学会等名 First Conference on Alimentation, under the Joint Auspices of IEG (PSL Universite Paris) and GUSTO (the University of Tokyo) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 第一のグローバル経済における国際労働運動の諸機能
3. 学会等名 社会政策学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 "Universalizing tianxia in East Asian Context"
3. 学会等名 Tianxia in Comparative Perspective: Alternative Models of Geopolitical Order (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 “Figurative Reality: Compound of Reality and Fiction in Kukai’s Shojijissogi”
3. 学会等名 “Reality and Fiction in Philosophy and Literature” at Online Conference supported by University of Bonn, University of Tokyo, and New York University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 「王弼再考 否定神学を超えて」
3. 学会等名 第二回中国文化研究国際論壇、東方学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 「根源的な偶然性に触れる 日本と中国の比較を通じて」
3. 学会等名 比較思想学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 “Who Teaches What to Whom?”
3. 学会等名 “The Future of the Humanities and Social Sciences: Perspectives from the Sociology of Knowledge” at Tokyo College (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中島隆博
2. 発表標題 “ The Light and Shadow of Democracy and Capitalism ”
3. 学会等名 Winter Institute 2022 “ Value and Values ” organized by EAA (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 園田茂人
2. 発表標題 「東京学派の『社会学アジア・コネクション』--その歴史的回顧と教訓--」
3. 学会等名 北京日本学研究中心「新時代における社会学の可能性」講義シリーズ（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 園田茂人
2. 発表標題 「東アジアの日本研究：その研究・教育での連携の可能性を探る」
3. 学会等名 第5回東アジア日本研究者協議会年次大会ラウンドテーブル（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「第一のグローバル経済における国際労働運動の特徴と機能：非普遍主義的な「解放」の道筋」
3. 学会等名 成城大学経済研究所ミニ・シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 "Lujo Brentano and Social Sciences in Japan between 1890s and 1940s; Social Statistics, TAKANO Iwasaburo and FUKUDA Tokuzo"
3. 学会等名 Deutsches Institut für Japanstudien, Symposium "Globalizing the Social Sciences: German-East Asian Entanglements in the 19th and 20th Century" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「いまに先立つさまざまな人間像：労働と生活の規範についての座長覚書」
3. 学会等名 社会政策学会第143回(2021年度秋季)大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 "Between ultra-nationalism and socialism: Changing contours of the Japanese reformist academics and entrepreneur, TAKANO Iwasaburo, OHARA Magosaburo and HIRAO Hachisaburo"
3. 学会等名 Conference of the European Association for Japan Studies (EAJS2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「美、諷刺、「封建的自由」：ホガースと近世日本の形象表現のずれ」
3. 学会等名 東京大学東アジア藝文書院・東京大学経済学図書館共催「近世ヨーロッパの文化と東アジア研究会」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 「社会政策学における独創性の追求 非自覚的な独りよがりと公知の狭間」
3. 学会等名 社会政策学会第142回(2021年度春季)大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 "Consuls in Asia: How a Chief of Foreign Residents Became a Diplomat"
3. 学会等名 Asian Universities Alliance, online hosted by Chulalongkorn University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松方冬子
2. 発表標題 "oward a Global History of Diplomacy: An Attempt to Break Down Europe's 'City Wall' "
3. 学会等名 online, hosted by the GHCC at Warwick University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計46件

1. 著者名 中島隆博・松方冬子・内田力・大木康・石井剛	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 84
3. 書名 「江湖・無縁・アゴラ もういちど「自由」の在処を探す」	

1. 著者名 園田茂人・中筋直哉・矢野善郎・米村千代・出口剛司・佐藤健二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 124
3. 書名 『社会学の中の東京学派』	

1. 著者名 中島隆博・石井剛	4. 発行年 2019年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 216
3. 書名 『ことばを紡ぐための哲学：東大駒場・現代思想講義』	

1. 著者名 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ちくま新書	5. 総ページ数 320
3. 書名 『世界哲学史1：古代I 知恵から愛知へ』（中島隆博「中国の諸子百家における世界と魂」）	

1. 著者名 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ちくま新書	5. 総ページ数 288
3. 書名 『世界哲学史2：古代 世界哲学の成立と展開』（中島隆博「仏教と儒教の論争」）	

1. 著者名 山下範久編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 456
3. 書名 『教養としての 世界史の学び方』（中島隆博「宗教的交通の豊かさ」）	

1. 著者名 Eds. Peter D. Herschok & Roger T. Ames	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Honolulu: University of Hawaii Press	5. 総ページ数 344
3. 書名 Philosophies of Place: An Intercultural Conversation (Takahiro Nakajima, "Seeking a Place for Earthly Universality in Modern Japan: Suzuki Daisetz, Chikazumi Jōkan, and Miyazawa Kenji.")	

1. 著者名 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ちくま新書	5. 総ページ数 336
3. 書名 『世界哲学史5：中世 バロックの哲学』（中島隆博「明時代の中国哲学」）	

1. 著者名 マルクス・ガブリエル、中島隆博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 集英社新書	5. 総ページ数 256
3. 書名 『全体主義の克服』	

1. 著者名 中島隆博・吉見俊哉・佐藤麻貴編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 『社寺会堂から探る：江戸東京の精神文化』（中島隆博 序論「精神文化の水脈」1 7頁 インタビュー（湯島聖堂）23 37頁、インタビュー（東京復活大聖堂）38 50頁、インタビュー（湯島天満宮）51 62頁、インタビュー（アッサラーム・ファンデーション）63 75頁、「日本の儒教」132 145頁、座談会「宗教性と変容」146 190頁、鼎談「新しい精神文化を求めて」191 224頁）	
1. 著者名 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ちくま新書	5. 総ページ数 400
3. 書名 『世界哲学史 別巻』	
1. 著者名 許紀霖、中島隆博・王前監訳、及川淳子・徐行・藤井嘉章訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 344
3. 書名 『普遍的価値を求める：中国現代思想の新潮流』（叢書ユニベルシタス 1121）（中島隆博「監訳者あとがき 許紀霖 普遍の擁護者」）	
1. 著者名 筑摩書房編集部編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 328
3. 書名 『コロナ後の世界 いま、この地点から考える』（中島隆博「パンデミック・デモクラシー」）	

1. 著者名 堀内勉・小泉英明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 404
3. 書名 『資本主義はどこに向かうのか：資本主義と人間の未来』（小野塚知二「際限のない欲望と資本主義の行方：経済史から見た新しい規範の社会的条件」）	

1. 著者名 飯倉章・山室信一・小野塚知二・柴山桂太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 宝島社	5. 総ページ数 346
3. 書名 『世界史としての第一次世界大戦』（小野塚知二「第一次世界大戦の原因を読み解く」）	

1. 著者名 高田馨里・小野塚知二ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 424
3. 書名 『航空の二〇世紀：航空熱・世界大戦・冷戦』（小野塚知二「航空熱と世界記録更新：技術革新の時期・主体・方向性」）	

1. 著者名 恒木健太郎・左近幸村編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 269
3. 書名 『歴史学の縁取り方：フレームワークの史学史』（小野塚知二「読者に届かない歴史：実証主義史学の陥穽と歴史の哲学的基礎」）	

1. 著者名 Orna Almogi (ed.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Department of Indian and Buddhist Studies, Universtat Hamburg	5. 総ページ数 402
3. 書名 Birds as Ornithologists scholarship between faith and reason: intra- and inter-disciplinary perspectives (Norihisa Baba, "The Birth of Mahayana Buddhism: How Shaku Soen Changed Modern Buddhist Studies")	

1. 著者名 松方冬子・西澤美穂子・田中葉子・松井洋子編、日蘭交渉史研究会訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 544
3. 書名 『一九世紀のオランダ商館 上 商館長ステュルレルの日記とメイラン日欧貿易概史』	

1. 著者名 「国際日本研究」コンソーシアム編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国際日本文化研究センター	5. 総ページ数 191
3. 書名 『環太平洋から「日本研究」を考える』（園田茂人「国際日本研究の『挑戦』と『機会』」）	

1. 著者名 Henning Glaser and Dirk Ehlers (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Nomos Verlagsgesellschaft	5. 総ページ数 597
3. 書名 State and Religion: Between Conflict and Cooperation (Yijiang Zhong "Yasukuni Shrine and the Politics of Religious Freedom in Contemporary Japan")	

1. 著者名 大木康	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 788
3. 書名 『明清江南社会文化史研究』	

1. 著者名 金文京編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 452
3. 書名 『漢字を使った文化はどう広がっていたのか 東アジアの漢字漢文文化圏』（大木康「白話」）	

1. 著者名 鍾以江（章タイトル：「曲がり角の人文知と日本の大学のグローバル化」）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 バブルと失われた20年	

1. 著者名 Takahiro Nakajima（章タイトル：「Civil Spirituality and Confucian Piety Today: The Activities of Confucian Temples in Qufu, Taipei, and Changchun」）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 347
3. 書名 The Varieties of Confucian Experience: Documenting a Grassroots Revival of Tradition	

1. 著者名 東大EMP、中島 隆博	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 東大エグゼクティブ・マネジメント 世界の語り方 1	

1. 著者名 東大EMP、中島 隆博	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 東大エグゼクティブ・マネジメント 世界の語り方 2	

1. 著者名 小林 康夫、中島 隆博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 424
3. 書名 日本を解き放つ	

1. 著者名 中島 隆博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 432
3. 書名 危機の時代の哲学	

1. 著者名 中島 隆博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 384
3. 書名 中国哲学史	

1. 著者名 中島 隆博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 人の資本主義	

1. 著者名 東京大学東アジア藝文書院、田辺 明生、中島 隆博、武田 将明、羽田 正、四本 裕子、張 政遠、橋本 英樹、伊達 聖伸、石井 剛、王 欽、國分 功一郎、熊谷 晋一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 トランスビュー	5. 総ページ数 360
3. 書名 私たちはどのような世界を想像すべきか	

1. 著者名 末木 文美士	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 死者と霊性 (中島隆博「地上的普遍性 鈴木大拙、近角常観、宮沢賢治」)	

1. 著者名 廖欽彬、伊東 貴之、河合 一樹、山村 奨	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 886
3. 書名 東アジアにおける哲学の生成と発展 (中島隆博「桑木巖翼と中国哲学」)	

1. 著者名 國分功一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 429
3. 書名 地球的思考 (中島隆博「哲学の希望 世界哲学から」)	

1. 著者名 馬場 紀寿	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 368
3. 書名 仏教の正統と異端	

1. 著者名 大木康、田訪・訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 生活・読書・新知 三聯書店	5. 総ページ数 173
3. 書名 『史記』与『漢書』：中国文化的晴雨計	

1. 著者名 大塚 久雄、小野塚 知二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 414
3. 書名 共同体の基礎理論 他六篇	

1. 著者名 園田茂人・鍾以江・内田力・板橋暁子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 77
3. 書名 『国際総合日本学ネットワーク10年の歩み』ブックレットGJS vol.1	

1. 著者名 園田茂人・中野嘉子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 105
3. 書名 『HKU-UTokyo Joint Summer Program: Teaching Global Japan Studies in Hong Kong』ブックレットGJS vol.2	

1. 著者名 園田茂人・Misook Lee・藍弘岳・Nalanda Robson・Patricia G. Steinhoff	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 127
3. 書名 『グローバル時代の日本学研究：GJS講演会／セミナーの成果』ブックレットGJS vol.3	

1. 著者名 園田茂人・丸川知雄・高見澤磨・川島真・黄偉修・川上桃子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 123
3. 書名 『 'Intellectual Giants' in UTokyo: A History of China/Taiwan Studies』ブックレットGJS vol.4	

1. 著者名 崔喜植・趙寛子・権肅寅・林少陽・劉岳兵・徐禎完・王中忱・山泰幸・鍾以江	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 132
3. 書名 『「アジアにおける日本研究」講演会』ブックレットGJS vol.5	

1. 著者名 中島隆博・木村朗子・穂矢まりえ・森山恵・ポール・シャロウ・寺田澄江・藤井貞和・高木信	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 98
3. 書名 『東京学派と日本古典 源氏物語をめぐって』	

1. 著者名 中島隆博・小野塚知二・大木康・園田茂人・松方冬子・鍾以江・馬場紀寿・内田力	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 180
3. 書名 『東京学派の研究 総合シンポジウム』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページ「(科研)東京学派の研究」
<http://gjs.ioc.u-tokyo.ac.jp/ja/tokyo-school/>
 東京大学「国際総合日本学ネットワーク」ホームページ内に設置し、研究会ごとに開催告知と内容報告を公開。研究成果である「ブックレット東京学派」も「エッセイ」というカテゴリで、各号のPDFファイルを公開。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	園田 茂人 (Sonoda Shigeto) (10206683)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	小野塚 知二 (Onozuka Tomoji) (40194609)	東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授 (12601)	
研究分担者	馬場 紀寿 (Baba Norihisa) (40431829)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
研究分担者	鍾 以江 (Zhong Yijiang) (40735586)	東京大学・東洋文化研究所・准教授 (12601)	
研究分担者	大木 康 (Oki Yasushi) (70185213)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	松方 冬子 (Matsukata Fuyuko) (80251479)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 シンポジウム「シリーズ「東京学派」：その求心力と遠心力（第1回）」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 研究会「東京学派とフランスの哲学」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 ワークショップ「包摂と排除：東京（帝国）大学の近代学知」	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 シンポジウム「東京学派と日本古典 源氏物語をめぐって」	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関